



博物館での職場体験

石鳥谷中学校の2年生3名が花巻市博物館で職場体験を行いました。体験を行った期間は、7月3～4日までの2日間でした。

体験の主な内容は次の通りでした。

- 博物館の館内の施設について説明を受ける。
- 「受付」で見学者の受付作業や一筆箋等の販売体験
- 博物館で行う体験学習に関する作業の体験
 - ・勾玉作り
 - ・プラ作り
 - ・火起こし道具（舞いきり）の組立てと火起こし
- 展示物を作るパネルの整頓
- 収蔵庫の見学
- 展示解説の実際を見学
 - ・学芸員が湯口中学校の生徒に「多田等観について」の解説を行っている様子を見学
- 講義「職業について」



パネルを同じ大きさ毎に分けているところ。根気のいる仕事でした。

多田等観について 2つの学校が学習

多田等観は、チベット仏教の研究者で、ダライ・ラマ13世の厚い信任を得てチベットで10年間過ごした方です。日本に帰って来てからは、花巻市湯口の方々と心温まる交流がありました。

湯口中学校3年生は、「花巻再発見」というテーマのもと、7月4日に来館し、学芸員の解説を聞き多田等観について学習していきました。



受付で一筆箋販売の準備をしている様子



また、湯口小学校6年生は、出前授業で多田等観について学習を行いました。学習を終え、次のような感想等を博物館に寄せてくださいました。

湯口にゆかりのある多田等観は、チベットにある8000m級の山を35日間もかけてはだして登ったということを知りてびっくりしました。ドライ・ラマ13世の宮で自由に出入りができると聞いて、やっぱり多田等観は、ドライ・ラマ13世にすごく信じられているんだなと改めて思いました。

多田等観とドライ・ラマ13世との関係やゲシェになったことなどが分かりました。ぼくは、6年生になって、初めて多田等観を知りました。日本の偉人が湯口にいたことが分かって、とてもびっくりしました。

等観が、チベット仏教学者になるまでの道のりや、等観にたくされた使命などを教えてもらって、円万寺に興味を持つことができました。

ぼくは、湯口にゆかりのある多田等観についてたくさんを知ることができました。チベット語を1年間でマスターしたことがすごい、と思いました。



出前授業で花巻空襲について学習

東和中学校生徒会は、8月10日の花巻空襲の式典に向け、全校で千羽鶴を折る取組を行うにあたり、花巻空襲について学習する機会を設けました。

7月12日、博物館から学芸員や社会教育指導員が出向き、体育館で全校生徒を対象に花巻空襲についての出前授業を行いました。

爆弾の破片や当時の兵隊の軍服等の実物資料も数点展示し、授業の後に見ていただきました。



授業を受けた生徒の感想

今日の講演を聞いて、いつもは教科書でしか見ることに、知ることのない戦争を、とても身近に感じることができました。私たちの住む花巻でも大きな被害を受け、多くの犠牲者が出たこと、そして、被害者の手当にあたった病院や看護学生のお話をうけて、改めて戦争の悲惨さや命の重さ、そして、平和であることの尊さを学びました。今回は、お話をさせていただいた上に、実際の物を手にとることができるなど、とても貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。